

修了にあたって

今年度は4月に実施された「全国学力・学習状況調査」や、12月に公表された「PISA 2006調査結果」など、「学力」に対する注目が集まった一年間でした。1月には中央教育審議会から学習指導要領改訂に向けた最終答申が提出され、今後の学校教育の内容が明らかとなってきました。また、教員の資質向上に関する動きも激しく、教職員評価制度や教員免許更新制度の導入が新たな方策として示されてきました。一方、学校現場に目を向けると、個に応じた教育の具体的な取組として、特別支援教育の本格実施が始まった年でもありました。

このような状況の中、私たち10名は、静岡県総合教育センターにおける一年間の長期研修の機会を得ることができました。研修研究部教職研修課（2名）、研修研究部カリキュラム開発課（2名）、研修研究部進路指導支援室（1名）、研修研究部情報教育研修課（2名）、教育支援部教育相談課（1名）、教育支援部特別支援教育課（1名）、生涯学習推進センター（1名）にそれぞれ配属され、国や県の教育方針や今日的な教育課題の把握に努めながら、年間を通して「教育とは何か」と問い続けてきました。

激動する経済・社会情勢の中、子供たちを取り巻く環境は刻々と変化します。それに伴って、教育課題も多様化し、複雑化しています。こうした動きを的確にとらえ、常に新たな視点から課題を解決しようとする姿勢が、教員の資質として不可欠です。しかし、どのような時代になったとしても、「不易」の部分を見失うことがあってはならないと思います。子供たちの今、そして未来のために、教育が果たすべき役割には不変のものがあると、私たちは信じています。

「平成19年度長期研修研究報告書」は、今の教育現場に存在する課題を取り上げ、各長期研修員が所属する各課・室・センターの視点からテーマを絞り込み、研究した成果をまとめたものです。現職の教員として、現場の実践につながることを常に意識しながら、一年間の研究を進めてきました。この冊子が、読んでいただく方のお役に立てば幸いです。

研修中、教育に関する様々な講話をいただくことができ、教員としての見識を深めることができました。また、研究を進める中で、所長をはじめ所員の方々よりいただいた助言は、私たちの支えであり学びとなりました。ここに、改めて感謝申し上げます。私たちは、今後も研修に励み、教員としての資質向上に努めていきたいと思っております。そして、長期研修で学んだことを学校や地域で生かし、静岡県の教育の発展に寄与できるよう努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、この貴重な研修の機会を与えてくださった静岡県教育委員会並びに各教育関係機関に感謝するとともに、私たちの研究に御協力いただいた学校、専門機関及び所属校の校長や諸先生方に、心よりお礼を申し上げます。

平成20年3月

平成19年度長期研修員一同